

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社小春日和		
事業所名	グループホーム小春日和		
所在地	亀山市南野町12-13		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町提出日	平成29年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&ligvoynoCd=2490400013-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県 四日市市 桜町 3690番地4
訪問調査日	平成 29 年 3 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の尊厳を守り、利用者が健康で安心・安全で生き生きと穏やかに生活出来ることを第一に考えています。毎朝バイタルチェック・体操(DVD体操、ラジオ体操、足踏み体操など)を行い、利用者の身体・精神状況などを把握して、心のケアも大切にしている。利用者、職員共に元気で明るく、家庭的な雰囲気でも支援している。地域の方々にも見守られ、毎月ボランティアの方々(レク・オカリナ・腹話術など)の協力でお茶やお菓子を楽しみながら、楽しい時間を共有し、利用者も大変熱心に参加している。外部の方々との語らいやゆったりとした時間の共有を大切にしている。又季節も感じて頂ける様に、お天気の良い日は散歩、四季折々には外出行事を計画している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「小春日和」の由来は、利用者や家族に、初冬の穏やかな暖かい日を感じてもらい、いつまでも温かい家庭的な生活を送ってもらえるような暮らしを提供したいが所以である。東海道から、小高い丘を少し上った昔からの集落の中に、大きな蔵を改装したノスタルジックな和風建築のホームとしだれ桜が目印である。隣に社長の家があり、庭と畑を共有している。
お天気の良い日には、午後1時にホーム内の空気の入替え時に、皆で外の空気を吸いに出て、庭で日向ぼっこをするのが日課となっている。また、ホーム内には、利用者の特性に配慮し、混乱や問題行動を未然に防ぐように、要所々に“説明”や“注意事項”が短く分かり易く掲示されている。
自立支援と健康維持には特に力を入れており、毎日体操やレクを日課に取り入れている

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、利用者の願い・思いを傾聴、受容して尊敬の念を持って接し、利用者の自立につなげていく。	利用者に安心して豊かな暮らしを送って貰えるよう職員一人ひとりが個人の尊厳を大切にするための勉強会を行い、利用者の意向や思いに耳を傾けながら、自立につながる支援努力や工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報提供により、参加を心がけている。当施設の駐車場が地域の祭りの休憩所となっている。ふれあい交流の機会となっている。	地域の文化祭に利用者の共同作品を展示してもらったり、地域の祭りにホームの庭を休憩所として提供したりと、自治会との協力体制がとれている。また地域住民がボランティアとして毎月来訪してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の様子等を毎月の職員会議議事録をもとに、運営推進会議のメンバー(自治会長・民生委員)にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告・利用者の様子・新しい取り組み・問題点などを報告。出席者の意見を参考にして、問題点・課題点について更なる話し合いを行い、今後のサービス向上に活かしている。	介護保険課職員他、自治会長や民生委員、家族の会代表等が出席して現状を共有し、意見やアドバイスを受けながら、様々な問題解決に向けて、活発に意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の入退居状況をお知らせするとともに、事業の運営や利用者に関する相談をして協力関係を築いている。	市には随時利用者状況の報告をし、また空室が生じた場合は情報交換もしている。市からは研修等のお知らせ情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の三人体制の時間から施錠解除。玄関の施錠はしていない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関して、事業所独自のマニュアルを作成し職員研修も行っている。外に出る機会を出来るだけ多く作り、職員が付き添って外出希望者にも応じるようにし、利用者に閉塞感を与えない努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は利用者の様子等に細心の注意を払い、防止に努めている。職員も利用者に対して適切な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象の利用者は、親類が対応して、問題はないそうです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族等に十分な説明を行い、十分に理解、納得してもらえる様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置しているが、活用されていない。面会時に利用者の状態、状況をお知らせするとともに、意見、要望等も直接お聞きして今後の運営に反映出来るように努めている。	意見箱は利用されないで、利用者家族に訪訪して貰った時に、意見や要望を気楽に話して貰えるような雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員意見交換ノート」により、職場の意見が反映出来る様にしている。介護現場の意見を聞く機会を(ミーティング・職員会議)で持っている。	改善提案等は、職員同士で話し合い、結果を管理者や施設長に上げる仕組みがある。利用者のケース対策、ベッドの位置や席替え、カーテンや室内物干し場の設営等、多くの改善が職員の提案から実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務の希望を聞き、身体的・精神的に無理のない勤務で向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保し、職員全員で学ぶ機会を持ち、意見交換をしてより良いケアの実践が出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して交流の機会を持ち、ネットワーク作り・意見交換・情報交換の機会をもち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように面談を行い、本人の困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で本人との信頼関係が構築出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように家族とも面談を行い、困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で家族との信頼関係が構築出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、意向を把握して、総合的援助ができるように対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は当施設の介護理念を念頭におき、家庭的な雰囲気ですべて接している。又業務に入る前に日誌・職員引継ぎノート・個人ケア日誌・職員意見交換ノートを閲覧して勤務に入ることを義務づけている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族等の面会時に本人の日常の様子を説明して、家族等が本人とのより良い時間の共有が出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は一緒に歌を楽しむ、昔を回想するなど本人との心地良い時間の共有を大切にしている。利用者と共に作った歌詞集3冊が出来た。当施設バージョンの歌も2曲ある。	地域のボランティアに来て貰ったり、家族の協力を得て、自宅でくつろぎ顔なじみの人と話す機会を作って貰ったりして、気持ちが安定し安心してまたホームでの生活を送れるようにと、馴染みの人や場との関係継続の支援努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1日の日課で生活し、一緒に支えあい、協力しながら仲良く暮らしを共に出来る様に支援している。朝の掃除など職員と共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設の利用が困難になった場合、必要に応じて情報提供・相談に対応している。関係性が継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に会話をする機会をもち、思いや意向を聴きながら把握していき、できるだけ利用者主体となるように心がけている。	耳の遠い利用者や口頭での意思表示が困難な利用者には、「1対1なら分かり合える」と、その機会を多く持つように心がけ、把握できた利用者の意向等は、職員全員が記録して共有することになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の上、課題分析(アセスメント)概要を作成して、共通理解の下、支援を始める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックをして観察強化。身体的・精神的に充足感が得ることができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアの課題点・方法を協議の上で設定、目標に向かって支援している。新たな課題は、その都度会議を開催して職員一同で検討している。	個別ケア日誌を作って、個々に毎日モニタリングの記録をしており、問題に応じその都度検討し、介護計画の視点に準じるように対応している。月末には、ケアマネのコメントも記入され、一人ひとりの健康や身体能力の向上に向けて、しっかりと管理されている。	更に求めるなら、モニタリング時や新たな課題の検討時には、利用者や家族はじめ、介護職員やケアマネ、場合によっては、医師や看護師を含めたチームでの取り組みも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア目標(課題点・ケアの方法)を立てて、その視点・観点で日々の個人ケア日誌を記録していく。新たな問題はミーティング・職員会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望や思いをできるだけ尊重し、外出行事・誕生会・季節行事・お楽しみ昼食を行っている。医療機関の受診支援もしている。ボランティアの方々との楽しい時間の共有も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	閑静な住宅街で環境も良く、天気の良い日は散歩、戸外でレクなど外の空気を満喫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援をしている。受診の際に個々の身体状況を報告して薬の処方をして貰っている。緊急時にはかかりつけ医に連絡、相談・指示を仰いでいる。	主治医が、毎月利用者だけの受診時間を設けてくれ、職員も利用者も落ち着いて相談ができていく。かかりつけ医には職員が受診支援をしているが、白内障手術のための通院支援も行った。医療行為が行われた際には、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックで健康観察している。体調変化時にはかかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、見舞いや電話で経過報告を聞き、退院にむけてのアドバイスをもらう等情報交換や相談をしている。ケースワーカーとの情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との協働の下、当施設として出来る事を十分に説明して方針を共有し、家族の理解が得ることができた場合チームで支援に取り組む。	今まで3名の看取りを行ったが、都度、家族・本人の希望を確認し、意向に沿った対応をしている。重度化や終末期における事業所の対応や方針は、契約時に「終末期における当施設の指針」を説明し、理解して貰っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の疾病・治療経過・薬剤などの情報は記録し共通理解を図っている。体調変化時にはかかりつけ医に連絡、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に火災・防災の避難訓練をしている。実施の際には地域の方々にもお知らせして協力体制を築いている。	緊急対応マニュアルがあり、職員研修も実施されている。連絡網も整備され、初動は隣家の施設長であり、災害時の地域との協力関係も築かれている。全職員の共通理解に向けて、場面設定や担当者を変えての訓練も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が出来る様に、言葉かけや会話にも注意をはらい対応している。	一人ひとりを尊重したサービスの勉強会も行われ、援助や提案に関して利用者が意思決定できるような聞き方に努めている。プライバシーに関わることは個別対応で、人に聞かれないところで意向を確認している。	一人ひとりの尊重とプライバシー確保の勉強会や研修は十分に行われているが、学習機会をパートや他の職員にまで広げられて、高齢者の尊厳やプライバシー確保の接遇の維持に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が出来る様に、職員は和やかな雰囲気と笑顔の対応で傾聴・受容して、尊敬の念をもってかわり、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を聞き、本人の主体性を重んじ、日々の安らぎを感じる事が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時・入浴更衣時など個々の主体性を重んじ、支援している。肌荒れ・口唇・手荒れ防止にケアタイムを設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は、老人宅配サービスを利用。お楽しみ昼食として、利用者の希望を聞きながら好みに合わせて、職員が手作りしている。誕生日・行事も利用者主体で行っている。	お楽しみ昼食日を設け、利用者の希望の料理や味付けを聞き職員が手作りしている。四季折々の行事食も大切にし、職員の手作りである。朝は夜勤職員が味噌汁を作る匂いで食欲を刺激している。食前の嚥下体操や食事時の観察を徹底している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取を重要視している。食事形態も個々に応じて工夫し、嚥下の悪い方は側について観察強化している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・うがい等の励行をしている。夕食後には義歯を預かり、洗浄して保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズム、パターンを把握した上で排泄の声かけをして、トイレに自主的に行くように誘導、介助している。又トイレ使用チェック表も活用している。	車いすの利用者含め全員が自立であるが、チェック表により、トイレ誘導、介助している。便秘薬の使用も極力控えているが、服用利用者に関しては職員全員が共有し、誘導支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り薬を使わない自然排便を目指して、水分摂取・食事・運動などの気配りをしている。利用者個々の排便チェックを徹底し、便秘薬服用の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回であるが利用者の希望に応じることが可能である。大きな浴槽でのんびり、ゆっくり入浴を楽しんでもらっている。	お風呂の順番表を作り、時間帯の偏りによる不平等感を無くすため順番にずらしている。職員が家からミカンやゆず等を持ち寄り、入浴が楽しめる工夫をすると共に、体調変化や状態観察の徹底を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息支援をしている。昼食後は、休憩タイム・娯楽支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は責任者が個別管理・保管している。受診情報も個別管理・保管。服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前にはリハビリ体操・ラジオ体操・足ふみ体操・水分補給・レク。午後にレク(ゲーム、歌、パズルなど)・おやつ、水分補給を支援。ボランティアの方々との交流も支援している。1日の終わりに日記を書いてもらい、心のケアもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援(散歩・買い物・病院受診・ドライブ・外食など)をしている。できるだけ四季折々を感じれるように(桜・花菖蒲・紅葉など)外出支援をしている。	外の空気や季節の移り替わりを肌で感じて貰う為に、冬でも昼食後の空気の入替時間帯に、庭先のベンチで外気浴の時間を作っている。天気の良い日は、体力格差を加味したコースで近隣散歩を楽しんで貰う支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持している利用者に対しては、出納帳を記入して管理している。能力に応じてお金を持たせ、買い物支援をしていたが、困難になってきたので、立て替え支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ、個別支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は狭いが、利用者の顔も見え動向もわかる。利用者の作品の展示・掲示で温かみのある空間が出来ている。空気の流れ替え・加湿・空気清浄・気温・湿度に配慮して居心地の良い共用空間作りをしている。	やや、手狭な共用空間だが、空気、温度、湿度に配慮し、インフルエンザ予防も兼ねて、毎日空気の入替をしている。狭い分、コミュニケーションが取りやすく、職員と利用者がテレビの料理番組の感想や意見を言い合い、話が弾んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゲストルームの空間は広くないが、利用者同士雑談もでき、ゆっくりと過ごしてもらえる様に工夫して活用してもらっている。又面会時にはお茶を提供して、語らいの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よくできるように、プライバシーも重視している。自分の居室となるように、本人の使い慣れたものも持ち込めるようになっている。	介護の度合いや身体状況に応じて、何も置いてない部屋、TV、ラジオや好きな筆筒が置いてある部屋、ベッドの位置を工夫したりと一人ひとりの状態に合わせてコーディネートされている。どの部屋にもボードがあり、レクで作ったカレンダーや作品が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全かつ出来るだけ自立した生活ができ、生活に迷いや不安がない様に、かつ職員の顔がいつも見える様に心がけて見守っている。時間・場所の表示などの工夫もしている。		